

白黒思想と創作論



20240225



エリー



目次

| | |
|----------|---|
| 本文 | 1 |
|----------|---|

本文

●創作のパターン

「Aは悪くて、Bをすべき」を白黒思想と呼ぶとしよう。

「みんな仲良くすべき。争うのはよくない」というテーマにした場合、創作では否定している状態から入る。

つまり、争っていて、いろんな問題がどんどん起きて、「なぜだめなんだ！」に気付きを得る。

そして「争わない」を選択したとき、うまく行くという結果になる。

創作とは、そもそもそういうものだ。

●現実に求められること

現実は違う。

争うべきときと、仲良くした方がよいときがある。

今はどっちなのか？

どうやるべきか？

というハウツーが問われることになる。

常に喧嘩腰でも、50%はあたる。

判断が間違っていて、0%になるくらいなら、決めうちで50%の方がまだ。

でもたいがいの人は、50%以上を求める。

試行錯誤して、100%になることを目指す。

●創作は基本的に炎上商売

白黒思想なら、白言えば「黒も必要」と言われるし、黒言えば「白も必要」と言われる。

つまり炎上必須なのだ。

●ハウツーは分からないといわれがち

白黒思想でないハウツーは、「一概には言えない」という態度で、詳細の説明をする。

白黒つけることを求める人には、「白なの？ 黒なの？」と文句を言われる。もしくは「分からない」と言われる。

●わたしの致命的欠点

白黒思想で、「白にすべき！」という強いメッセージを発する場合、伝えるために関係あることだけ選ぶ。

「黒も役に立つよね」は意図的に排除する。

わたしはこの作業がへたくそで、何がいたいかわからない話になりがちだ。

作家に向いてない。

●白黒思想が必要なとき

たとえば、ノーといたくても言えなくて、白100%で、黒0%の場合、「黒をすべき！」というメッセージは、気づきを与える。

「黒をしてもいいんだ」になる。

だから子どもの方が物語を求める。

●ノウハウが必要なとき

対して「白も黒も必要だよ」になっている大人は、「今はどっち？」「どのくらい？」「なにをやる？」が知りたいから、ビジネス書などのハウツーを求める。

大人は物語よりノウハウを求める。

●わたしが目指していること

白黒思想で作るのが創作の王道なのは知っているけど、わたし自身はそういう話を読みたくない。

求めている内容と違うからだ。

そういう話もありだけど、わたしの好みではない。

どういときに、どうするのか、判断とやり方を示す小説は可能か？

そこに悩んでいる。

白黒思想と創作論20240225

著 ELYE

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
